

審議会等の会議結果報告

1 会議名	令和6年度第2回津市図書館協議会
2 開催日時	令和7年2月17日（月） 午前10時30分から正午まで
3 開催場所	津図書館 2階視聴覚室
4 出席した者の氏名	（津市図書館協議会委員） 永合 哲也、安藤 はるみ、木原 剛弘、山下 恵子、安部 彰 岡野 裕行、千原 美和 （事務局） 教育長 森 昌彦 教育次長 長脇 弘幸 教育研究支援課長 伊東 和彦 津図書館長 米山 浩之 津図書館管理担当主幹 小野寺 卓也 津図書館奉仕担当主幹 山口 理絵 津図書館主査 鏡 凌太
5 内容	1 あいさつ 2 令和6年度事業経過について （1）行事結果、テーマコーナー及び資料展示について （2）津市図書館の居場所づくりについて （3）図書館情報システムの更新について 3 その他
6 公開又は非公開	公開
7 傍聴者の数	0人
8 担当	教育委員会事務局津図書館管理担当 電話番号 059-229-3321 E-mail 229-3321@city.tsu.lg.jp

事務局

お待たせいたしました。定刻となりましたので、ただいまから令和6年度第2回津市図書館協議会を開催いたします。本日はお忙しい中、お集まりいただき、誠にありがとうございます。それでは開催にあたり、教育長からご挨拶を申し上げます。

教育長

皆さん、こんにちは。大変お寒い中、また、お忙しい中お集まり頂きましてありがとうございます。平素は、図書館の運営に格別のご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

今まで、ここ何年かご意見をいただいているんですけど、昔自分たちが図書館に求めていたものは、子どもの頃だったら落ち着いて勉強ができたとかですね。

今はそうではなくて、本当に多様ないろんな方々が居場所として、活用できる場所が求められているような気がします。

そんなこともあって、新しい図書館を作ってみえるところ、例えば、福井の敦賀の図書館ではないですけど、駅前の本が読めてゆったり過ごせてお茶も飲めて、喫茶的な本屋さんと一体化しているとか、亀山市とか駅前に非常に素晴らしい図書館を建てられて子育て中の方とか、中・高校生ヤングアダルトなどのいろいろな方が気軽に立ち入りやすいような空間であったり、そのような場所になっています。

四日市も駅前に図書館を作るという構想があって、他県でも図書館をどんな風にしていくか、随分いろいろな工夫がされているようです。

津市の場合は9館2室あるわけですが、それをどのように運営していくかということです。

これから新しく作り上げるということではなく、今ある空間をいかにしてうまく使うのかとか、もっと柔軟に使えるようにするとか、図書館のあり方をもっと考えていく、そのためにこの協議会で皆さんに知恵とか考えをいただくというのはありがたいと思います。

津市の図書館で最近やり出した、飲み物の持ち込みを可能にしたり、子ども用の TENT を設置して、図書館に行きたくなるような工夫をしています。

今日の協議会ですが、事業の経過も報告させていただくのですが、図書館の居場所作り、電子図書とかいろいろなことが言われている中での図書館の情報システムの更新とかについてもちょっと詳しく報告させていただきたいと思います。

多様な市民ニーズへの対応ということで図書館サービスの向上に取り組んでいきたいと思っており、貴重なご意見をいただければと思います。

以上、開会に当たってのご挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

事務局

ここで本日の出席者数をご報告させていただきます。

委員10名中7名の方がご出席いただいております。

倉田委員、柴田委員、伊藤委員におかれましてはご欠席となっております。よって津市図書館協議会条例第5条による開設の条件、議員の半数以上の出席を満たしておりますので、当会議が成立していることをご報告申し上げます。

またこの会議につきましては津市情報公開条例第23条によりこれを公開します。

また会議録につきましては後日公開をいたしますので、会議内容を録音させていただきます。

ご了承賜りますようお願い申し上げます。

なお本日の傍聴者はございません。

続きまして配布資料の確認をさせていただきます。

事項書、協議会委員の名簿、事務局職員の名簿、本日の会議の資料となりますが、資料１－１令和６年度津市図書館行事結果一覧、資料１－２テーマコーナー及び資料提供、その下の方には資料１－１の別添１から別添７を配布させていただいております。

次に資料２津市図書館の居場所作りについて、最後の資料として資料３システムの更新について、以上になります。

それでは事項書２以降の議事の進行につきましては会長にお願いいたします。

みなさまよろしくをお願いいたします。

会 長

それでは事項書に沿って進めて行きたいと思います。

まず事項書２、報告書１令和６年度事業決算について事務局の方から説明いただきます。

事務局

奉仕担当の山口と申します。

よろしくをお願いいたします。

令和６年度の行事結果につきまして、ご報告させていただきます。

資料１－１、１－２については令和６年度の行事結果の一覧とテーマコーナー・資料展示の資料となります。一部をご紹介させていただきます。

資料１－１の行事結果一覧ですが、津図書館では、１０月２６日（土）に津図書館の講演会として、福井県立大学恐竜学研究所の柴田教授をお招きし、「最新恐竜学の世界」と題して最新の恐竜学の世界についてお話いただきました。チラシは別添１になります。たくさんのスライドと参加者を飽きさせないように書き込みできる資料などもご用意いただき、時間が足りないくらいでした。

また、１月１３日（月・祝）には、津市出身のイラストレーター伊野孝行氏をお迎えし、第一部トーク&第二部デッサン会を実施しました。資料は別添２です。第一部では、ご自身の経歴から世界の絵画まで幅広いお話をいただきました。第二部のデッサン会では、参加者の中から何人かにモデルになっていただき、１０分ほどでデッサンを描く作業をしていただきました。皆さん経験者の方や興味のある方だったようで、お子さんも何人かみえましたが、集中して絵を描いていました。図書館の講演会としては、めずらしい企画でしたが好評でした。

また、資料別添６になりますが１２月８日（日）には久居ふるさと文学館で「蔦重って誰だ？江戸の版元―蔦屋重三郎の世界―」を開催し、三重短期大学名誉教授の竹添敦子先生に大河ドラマで話題の蔦屋重三郎の経歴や江戸の庶民文化についてお話しいただきました。２４名の参加者をご参加いただき、熱心に聞いていただきました。

資料が前後しますが、別添５も久居ふるさと文学館でのイベントです。２月２３日（日・祝）に劇団津演という演劇の団体の方に宮沢賢治や宮部みゆきの作品を朗読していただきます。久居の図書館では初めての試みで、どんな感じになるのか楽しみです。

また、別添７の資料は３月に一志図書館で行われるイベントです。３月２日（日）に「図書館でわいわいゲームしよ！！」と題して図書館でテーブルゲームを楽しみます。以前に久居ふるさと文学館で実施したことがあります。一志の図書館では初めて実施しますので、こちらも多くの方に楽しんでいただけると良いと思います。

次に、資料１－２のテーマコーナー・資料展示ですが、季節に合わせた内容や受賞作品を集めるテーマコーナーのほか、久居ふるさと文学館では、お隣のアルスプラザでのイベントの内容に合わせた図書の連携展示を実施して利用促進を図っています。続きまして、資料別添３の映画「アイミタガイ」の

PR についてご報告いたします。今年の 11 月から公開となりました映画「アイミタガイ」において津図書館も舞台の 1 つとして、撮影が行われました。

映画の上映期間中、映画の主人公の親友の父郷田優作の勤務先が津図書館という設定でしたので、映画の PR と来館のきっかけとして展示等を実施しました。劇中で使用したエプロンと名札を貸し出して郷田優作になりきって撮影できたり、映画を紹介するパネルやロケ地マップの配布なども行いました。

今後もこのような機会をとらえて、図書館の PR ができたらと考えております。

続きまして、別添 4 の資料をご覧ください。こちらは、第 5 回みんなの POP づくりコンテストの受賞作品の一覧となっております。今年度は、令和 6 年 7 月 12 日（金）から 9 月 20 日（金）まで作品を募集し、787 点の応募がありました。昨年度より 63 点応募作品が増えました。図書館職員による 1 次審査、子ども読書活動推進会議委員と一身田中学校の美術教員による 2 次審査を経て、42 点の作品が決定しました。1 月 31 日（金）から 2 月 26 日（水）まで津市内図書館で受賞作品と図書の展示を実施しております。

また、市内の書店でも今後最優秀作品の展示を予定しております。

今年度の応募作品では、タイトルや著者名は書かれていますが、出版社の記載がないものが多く、募集要項で出版社名の記載も求めていることから、記載のないものは審査対象外としました。そのため、小学生や中学生の部門で選考対象外となる作品が多数ありました。また、昨年度同様、表紙や挿絵のデザインをそのまま描いている作品が多く見られたため、学校で応募の場合は担当の先生にもお伝えすることにし、引き続き注意事項について具体的なイラストなども添えた例を示して説明した文書も配布していく予定です。

令和 6 年度事業経過については、以上です

会 長 令和 6 年度の事業経過についての報告が終わりました。ご質問、ご意見等ございますでしょうか。

木原委員 非常にいろんなことをされているなと改めて思いました。
募集定員に対して実際はどうかとか。
ここへ来ている方が普段、図書館を利用されている方なのか。
素晴らしい事業をやっているのは分かるのですが、どうなのかな。この企画を持って新たに行った結果だと思うんです。
そこらへんが見えないので、館内に来られる方の定員数と参加者の見方が変わってくるのかなと思います。
どの年代をターゲットにしているのかが、何となく分かりにくいと思います。

もう一つはポップ作りコンテスト、同じような話を聞いておりまして、優秀作品が同じ学校に固まっているのを図書館側として、どういう風に受け取っているのか、お聞きしたいなと思っております。

会 長 ありがとうございます。今のご意見に付け加えとかありますでしょうか。

千原委員 優勝される学校とか割と固まっています。それは学校が熱心にされているとか、取り組み方がいろいろあるんでしょうかね。その辺りもお聞かせいただけたらと。

会 長 今の何をもって評価しているのか、どこに狙いを持ってそれを達成されていたのかという部分とか、事務局の方いかがでしょうか。

事務局	ポップ作りコンテストにつきまして、受賞校が偏っているのじゃないかということについて、応募される方が学校単位で応募されております。 学校がまんべんなくあるというのではなく、結構限定的にありますので優秀作品というのが、応募された学校に固まってしまうという状況になっております。 あと募集の何をめざしているかというのが、ある程度絞られているものもあるんですけど、アンケート調査とかもさせていただいておりますので利用されているのかされてないのか、そういうことも含めてターゲットを絞った形でより良いものにさせていただきたいと思っております。
会 長	今の時点で、今まで来なかった人の出席とかそういう情報はありますか。
事務局	今まで来なかった人が出席されたとかの情報はありました。 伊野孝之さんの講演会は、普段あまりいらっしゃらない方もみえていました。
千原委員	イベントの時に参加者に簡単なアンケートをとっていただくとか。そうすれば声も分かるのでは。
事務局	アンケートも現在は取ってはいるのですが、なぜ参加しようと思ったかまでは、ちょっと今は整理していないです。今後はその辺もと取っていきたいと思います。
木原委員	その辺り、新たな利用者を増やしていこうとする時に過去のデータを生かそうと思うのであれば、このイベントは肌感覚として何が良かったのかという、何がと言うのを分析していただいて、次はこういう風にしていこうとしていかなければならないのかなと思います。 日頃、よくご利用いただいている方のニーズに応じていくという部分はきっと大切だと思っています。 その二つを平行して走らせていくのかなと思います。 たぶんポップ作りコンテストの方も同じようなことだったと思います。 人があまりいないとか、そもそも担当官の先生がいないと言うことであれば、その辺りは連携してアプローチの仕方を変えていかなければいけないのじゃないかなと思います。 津図書館としては、なかなか学校へ行くようなことはないと思いますが、子ども達がこれをきっかけに本との距離を縮めていくことになればよいと思いますし、応募が少ない学校が明らかにあるということであれば、そこに何らかがあるのじゃないかと思えますし、図書館という枠ではないのかも知れませんが、見ていただいて、そこへどういうアプローチをしていけるのかということだと思います。
会 長	ありがとうございます。
岡野委員	行事的なことなのですが、津図書館のことなんですけれど。どういう配列、並びとなっているのか。 テーマコーナーは行ったり来たりうまく流れていますが、おはなし会とかはどういう並びなのかな。 ちょっと説明が分かりずらくてすみません。 どういう風な流れで、テーマコーナーの大人向け、子供向けって言うのを決められているのか。 図書館の行事というのも、大人向けの行事と子ども向け、児童向けの行事

があって、それがどういう目的で決められているのか。
内容的にはすごく良いものをされているなと思うんですけど。
あと何月何日に完成ということ、それを付け加えていただけるとすごく分かりやすいと思います。

会 長 その前にごめんなさい。先ほど、木原委員からポップ作りについてのいろいろなアプローチの仕方についてご意見がありましたが、その辺りはもうよろしかったでしょうか。
先ほど言われましたように、その応募、参加してないところに対してどういう風なことをしていくのか、子どもたちに参加していただくことで本に親しんでもらうというのがポップ作りという中での狙いとなっているので、その辺をもう少し明確にしていくということが大切ではないでしょうか。

千原委員 よろしいでしょうか。
そのことについてですが、本よもうねっとなってあるじゃないですか。小学校の図書館で親子の語りとかをやってみえて、すごく情報が一杯入って来るんですけれど。
あれは小学校なんでしょうか、それともPTAとか、小学校の図書館で、親が子にこういうお話しがあるよというのを、学校単位でしてみえるというのか、本よもうねっつで見受けるんですけど、そういうものが図書館と繋がっていくとか、本を読んで感想を書くというのには繋がってきそうな気がするんですけれども。
その辺りは山口さんいかがでしょうか。

事務局 本よもうねっつとMie は県が主催でされていまして、津の図書館とか参加をしています。
本に関するイベントとか県内で行われるもの、様々なものの情報を送っていただいております。
多分、その情報を見ていただいたのかなと思います。
図書館で催しをするとかも、情報を流していただけるというのを聞いていますので、ポップ作りコンテストなどもできるものか一度聞いてみたいと思います。

会 長 ありがとうございます。
またそのポップ作りコンテストの、今いろいろあげてもらったことは次年度に検討してもらおうということでお願いしたいと思います。
あと、その前の行事についてのアンケート等の取り方を含めて利用者の実態について、さらに詳しく調査していただきながら状況把握をしていただけたらなと思います。
発言してもらった意見についてはよろしいでしょうか。
ではそのあと岡野副会長さんからご意見いただきました資料3について、どういう風にという部分を事務局から説明いただきます。

事務局 では事務局の方からご説明させていただきます。
資料について先ほど岡野委員様から言われました点については、確かに何が講座であるとか講演会であるとか、いろんな行事がぐちゃぐちゃになっているのかというのは、ちょっと反省点かなとは思いますが、先ほど千原委員様から言われましたように、行事に参加された方がどれだけ人数がいるのかとか、分析していろいろな視点で提案すべき資料として作っていくようなものが必要だったのかなと思いました。
今後、協議会を行うにあたって、まずはどういう行事をしたかというのを

	ご報告するというのは必要かなと思っていますので、資料については見せ方も含めて以後、工夫して作っていきたいと思います。
会 長	資料については、他にご意見はありませんでしょうか。
安部委員	図書館の居場所作りというところの部分で、イベントを開催する時の曜日であるとか、居場所作り、あるいはその次の本を手にとられるところまで繋がっているのかという部分も、いろんな報告を受けておられるかと思うんですけど、この会の中でもその辺りも報告いただけると分かりやすいのではないかと思いますのでよろしく願いいたします。
会 長	事業経過についてよろしいですか。
山下委員	イベントの開催されることによってどういう効果があったとか、図書の貸し出しに繋がったとか、そういう関係も教えていただければと思います。
事務局	講演会であるとか講座なども来ていただく方が書かれた本があれば展示して、貸出しもいたします。 伊野孝之さんの時も伊野さんの本を展示いたしまして、貸出もできるようにさせていただきました。
会 長	他のイベントも含めて、またそういう風なこともこの協議会の中で話し合っていたかとありがたいと思いますので、よろしく願いいたします。
安部委員	私達はそれぞれのイベントの参加人数とか分かりません。 まず一般の皆さんが知らない。 そのおはなし会ってそんなに人が来てるんだとなると、じゃあ何が人気なのかなとか、私も行ってみようかなとか、また逆のパターンもあるかも知れませんが。 さっきのポップ作りコンテストの審査結果とか、これなんか個人情報みたいなのが入っているので、難しいかも知れませんが。 僕は大学に勤めてる研究教育以外のいろんな主張とかあるんですが、その成果を評価のために公表していますが、評価委員会は見てますけれど、じゃあ県民の皆さんが公開とかあれば見ようと思えば見られると思いますが、結局何をやっていて、どれ位それがみなさんの心を掴んでいるのかいないのか、その辺のところをもっと、見に来てくれたら分かるよという状態ではどうなのかと思います。 発信をもっといろいろしていくと、それは誰を対象するかを含め、皆さん知恵を絞ってやられているのか、市民の皆さまにそれも含めて伝わると思うので、情報提供がそれらを踏まえた上で伝わると思うので、情報提供とかを進めていただけたらと思います。 以上です。
会長	ほかに情報提供とかその辺いかがですか。
事務局	行事結果一覧につきましては、図書館の要覧に掲載をしておりますしてホームページの方にも掲載があります。 ポップの方もホームページの方に子ども読書活動のページがありまして、お名前は載せない形で受賞作も掲示はしています。 なかなかそういう形でしか掲示はしていないので、別の方法も考えなければ

ばならないのかなと思います。

会 長

また、掲示の方法も考えて進めていただきたいと思います。
たくさんご意見いただきましてありがとうございます。
それでは次（２）の図書館の居場所作りについて事務局の方から説明いただきます。

事務局

それでは津市図書館の居場所作りについてご説明させていただきます。
資料（２）－１をご覧ください。
津市図書館の居場所づくりについて、ご説明いたします。
資料２の１ 重点目標をご覧ください。津市図書館が居心地の良い場所となるよう、様々な試みを実施していくことを重点目標として掲げているところです。
２ 関連行事・行事内容等につきましては、津市図書館が居場所づくりを目的として取組みを実施していることを、内容別に分けたものであります。
主な取組みとしては、飲み物を持ち込むことを拒まないこと、話せる図書館、場所や日時を限定し、館内で会話できる空間の構築、子どもを対象に遊びながら、本を読むテントを館内に設置したことであります。
また、ＹＡ世代が本を手に取りやすいようにするため、カウンター付近の配置換えを行うとともに、学習室前に「今日のおすすめの一冊」と銘打っておすすめの本も紹介しています。
また、三重短期大学の政策研究・研修に参加して、さらなる居場所づくりの研究を行うとともに、津図書館以外の各館においても、特色ある事業を試み、重点目標を達成することが出来るよう、努めているところです。
今年度の居場所づくりに関する事業の成果としましては、問題なく事業を展開することが出来たことから、成果があったものと捉えております。
今後も各館において、工夫を行いながら居心地の良い場所として過ごしていただけるよう、様々な取組みを実施して、津市図書館全体で居心地の良い居場所を提供できるよう推進していく予定であります。
このように、各図書館で取組みを実施することにより、図書館での居心地の良い居場所の充実を図られるものと捉えております。
今後、津市図書館において、ご説明した取組みを実施していくことを考えておりますが、３事業の成果・今後の方針として、飲み物の持ち込みの拡充や若者の居場所などアンダーバーで記述のある箇所について、方向性をしっかりと定めた上で、居場所づくりの事業として、実施していく必要があると考えていることから、委員の皆様より、忌憚なきご意見を頂戴いただければと考えているところです。
資料２の説明は、以上であります。どうぞよろしくお願いいたします。

会 長

ありがとうございます。今年度、居場所をどのように作っていくかということからスタートした訳ですが、ご意見をいただけますでしょうか。

安部委員

児童コーナーにテントを設置して、割と人気があるとご報告いただきましたけれど、着想というかアイデアというか、これはそもそもなぜそういうことをされようと思われたのか。
自分が子どもの頃を思い出して、そういうところで好きなことをやりたいという子どもの傾向、そういうことも踏まえて子どもの心の中を想像したりしながら、いいなあと思いながら聞いていました。

会 長

安部委員の質問に対して、何かありますか。

事務局	新しく出来た図書館などに視察に行かせていただいて、亀山市にも視察させていただきますと、建物の窓際や棚の間などに小さな窪みがあって、中に入って、くつろいだり本を読めるという場所が作られています。そうしたところで過ごしたいお子さんや、もともとお子さんはそういうところが好きだったりして、中に入って過ごせるところがあると良いのではということになりました。ただ施設の的に新たに何かを作るというのは不可能なので、県外やいろいろな図書館なども調べまして、テントを置いているというところがあるとわかり、置かせていただいたような次第です。
千原委員	いいでしょうか。亀山の図書館に行ったことがあります。本を置いてあるスペースと皆さんがお茶を飲んだりする椅子が置いてあるスペースは床が違いますよね。くっきりと分かれていますよね。 始めのお話にあったように中高生の方がすごく多いです。小学生の子や子どもさんも、掘りごたつではないですが、それ仕様のスペースがあって、すごく楽しそうにしています。大人の方も自分の居場所としてくつろいでみえて、自分の居場所というかすごく可能性にあふれているように感じます。 一番最初のお話で、今ある環境の中でどんな風につくりかえていくかというのが今回の課題だと思いますので、新しいところはそれは素敵ですけど、亀山市のような色々な可能性を含んだところを見学されて、すぐにアクションを起こされて、小さなテントを置くだけでも第一歩というか、素敵だと思います。どんどんこれからも違うところも見学して、気づくことがいっぱいあると思いますので、発表を楽しみにしています。ちなみに、テントは1個だけなんですか。
事務局	2つ設置しています。
安部委員	常に利用されているような感じですか。
事務局	少し声がすると思って、確認するとお子さんが2、3人入ったりしています。声がしても皆さん気にせずにもらっていました。
千原委員	聞いていいですか。テントのスペースはおはなしの部屋ですか。
事務局	児童コーナーの閲覧スペースです。おはなしの部屋だと靴を脱いで上がるので、遊び場みたいに走り回ったりすることが時々あるので、危ないかなということになりました。
千原委員	安全面を考えてということですね。ありがとうございました。
山下委員	1年前になかったことをこれだけ実現されているというのは素晴らしいと思いながら、今回の報告を聞かせていただきました。協議会で出た意見とか、職員の皆さんでご考案いただいたこともあるんですけど、子どもたちがどう思っているか、どういう図書館にしたいと思っているか、当事者に直接意見を聞くというのが現代社会で中々できないです。 子どもの権利が言われているところでありますが、本人に直接意見を聞いて素晴らしい意見が出てくるとは思っていないですが、子どもたちのつぶやきとかこういう場所であって欲しいとか一言一言を積み上げながら形にしていくというのも大事かと思います。ただ形にするのが目的というよりは自分が図書館に参加できているとか、こういうことを言っているんだとか実感できる場になっていくと思うので、直接意見を聞くというのが求められると思います。

安部委員	今おっしゃっていただいたことはとても大事ななことかと思います。
千原委員	自分が相手とつながりができて、コミュニケーションが広がっていくということですね。
会 長	まさに山下委員が言われたことは自分がドキッとしました。やっぱり、いつも大人が与える側になるのではなくて、子どもたちがどんな風にしていきたくを確認しながら次につなげていく。そのことがこれから図書館できると、子ども目線の図書館になっていくのではないかと。そのあたりはどうですか。
事務局	本当に一番大事ななことかと思います。子どもたちから直接聞くとか紙に何か書いてもらうなど、色々な形で意見を取り入れていきたいと思います。
山下委員	立派な意見を言わないといけないとかではなくて、例えば壁に模造紙を貼ったり、付箋、カードとかを用意してもらったらどんどん意見が広がっていくんですね。まん中子ども館でもそういう形で意見を聞いているんですが、意見を書いた子も誰かに見ってもらうとかその日には書けなかったけど、考えて次に行ったときに貼ろうとかその子自身にも考えるきっかけになると思います。
千原委員	山下さんのお話をお聞きして、まだまだ新たな可能性があるなと思いました。岡野先生の論文「三重県における高校生ビブリオバトルの参加側と普及側の立場から見てきたこと」を拝読しました。今まさに山下さんがおっしゃっていただいたことをビブリオバトルで高校生が5分間本を紹介するというのをやっていますよね。目の前で自分の話を無条件で5分間聞いてもらう体験というのが、貴重ですよ。素敵なことだと思いました。また、ビブリオバトルの運営をお手伝いされている子もいますよね。 中高生の人たちに何かの役割を持っていただける場所として図書館があってもいいのではないかと思います。可能性のある年頃ですから、それが居場所にもなるんじゃないかと思いました。
岡野委員	自分の考えていることを言語化する場があるというのはすごくいいと感じています。文章を読んでいただいてありがとうございます。学生の子と一緒に書いたんですけど、その子は今、県の職員になっています。
千原委員	活動を通して可能性が広がったんですね。 亀山の図書館の話ですが、ビブリオバトルは満員すごいことになっています。
岡野委員	亀山市立図書館も僕の教え子がいて、その子も高校、大学と携わって、今、亀山市立図書館で頑張っています。
会長	ありがとうございます。たくさん居場所づくりについて御意見をいただきました。他によろしいでしょうか。
木原委員	一つよろしいでしょうか。中高生が図書館に求めることとして学習する場としての図書館というのがありますが、ここが居場所に入っていない

のは、少しどうかと思います。個別に勉強する、もしくはグループで勉強するというニーズがあると思いますし、先進的なところでは学習机が電子予約できたり、勉強スペースが本が置いてある場所にあったり、例えば椅子の置き方がいろいろな場所にあたりします。こうした取り組みは大きなハード面でなくてもできると思いますし、中高生が勉強する場所というのがきっかけで、図書館に足を運ぶことになることもあると思いますし、そのあたりで子どものたちの居場所としての図書館の役割というのは大きいと思います。ぜひよろしく思います。

毎回教育長がハードが中々難しいと言われてますが、ではハードは仕方ないよねと考えてはいなくて、そういう場所をつくっていただけるなら、それに越したことはないとは考えています。

安部委員

昔から図書館で勉強したいというのは普遍的ニーズですよ。ただ図書館は勉強する場所と違うと注意されることもあり、僕も昔経験ありましたが。

居場所としての図書館の概念というのが変わってきている中で、今おっしゃられたような勉強する場として、図書館に勉強できるスペースを作ったりとか、棲み分けは進んでいるでしょうし、それをもっと津の図書館でも推し進めていただくというか。

中々現状ハードの制約の中で、どういう風に棲み分け等を行っていくかというところに難しさがあって、どういう風に形にしていかに難儀されているという状況かと思いますが、利用者の皆さんの意識を変えるために仕掛けていくというのは大事かと思います。最初はトラブルもあると思うんですが。適当なことを言いますが、可動式の一人用の机や椅子を勉強する場として通路に置いたりして。状況によっては邪魔ということになるかと思うんですけど、勉強するスペースとして設置する試みを始めたということで、色々こういう問題が起きそうだからやめておこうというのではなくて、やって怒られたりしつつある程度やり続けていくと、定着してこういうものだと思われちゃうんじゃないですか。そういう風に変えて前に進んでいくといいかと思いました。無責任な発言ですが、そのように思いました。以上です。

安藤委員

居場所づくりという点に関してですが、箱物を作るのは難しいけど、今の現状の中でどうしていくかという中で、今まで図書館という自分の欲しい本を探すというイメージだったんですけど、座りたいんですね。居場所という見方でいくと、ソファでもクッションでも普通の椅子でもいいし、親子でちょっと座れるような椅子が欲しいです。それだけで居場所になっていくような雰囲気作りができると思います。親子で座れるような大きなクッションが置いてもらっていると、お母さんがお子さんに本を読んであげたりできるし、工夫して置かれているとすごくいいんじゃないかと思います。手取り早く、お金がかからずできるんじゃないかと思いました。

岡野委員

座る場所が欲しいという意見で言うと、例えば「マイパブリックとグランドレベル」という本を書かれている田中元子さんという東京の方で喫茶ランドリーという、カフェなんですけど、ランドリースペースがあって、そこで掃除洗濯をすることで、わいわいコミュニケーションが生まれるという面白い取り組みをしています。

ワイワイこう会合しているとか、こういう選択をすることで、コミュニケーションが生まれるっていうふうな場所、面白いんですけど。そこに街の中にベンチを設置するという取り組みをしています。

地方は少なく、なかなかやってる場所がないので、ベンチを増やしていこうというプロジェクトがされているんですけど、そういうふうな腰をつ

けるというふうなプロセスが街の中にあるといいなあと、公共空間になるといいなあと。極端な例かもしれませんがファミックブック、いろんな街の公共空間とか普通の道をいろんな風に使おうとかプロジェクトがあって。町の中に唐突にこたつを置いて。知らない人もどうぞどうぞのような感じの方もいらっしやって。腰をつけてしゃべってる時間にもなるし、こういう風にただいてもいい場所という点を作ってしまうでもいいじゃないですか。その点では子ども達のコミュニケーションが生まれたりとか知らない子ども達とまた交流できる、子どもたちに任せてもいいなあとという感じです、ほぼ。日常が平常化という肩書でやってるんですけど、商店街にユーチューブでのプロジェクトやったり、情報とかメディアが入ってきてっていう。どうしても身体的なものもありますので、こういうことができればいいな一という感じが。図書館はハードなのでなかなか大きいとは思いうし、やりたいという方法が街づくりでやってるところが参考にできると思います。

会 長

ありがとうございます。たくさんご意見いただきまして。

なかなか限られたスペースの中で多様な人がみえて、それがいろんな人の居場所づくりって凄く難しいなあと聞きながら思いましたけれど、また次年度引き続きよろしく願いいたします。次に（３）図書館情報システムの更新についてお願いします。

事務局

図書館情報システム更新についてご説明の方をさせていただきます。まず資料３の１重点目標の方をご覧ください。令和７年１２月からの図書館情報システムの更新に伴いまして、クラウドサービスを利用した新たなシステムを導入するということを重点目標として掲げているところであります。２の事業概要といたしましては、先ほど、ご説明しました重点目標を達成するために、図書館情報システムの更新及び保守・運用サポート業務については、公募型プロポーザルにより業者を決定するという方法を取り入れまして、当該プロポーザルを行った結果、株式会社ミエデンが最優先候補者に決定いたしまして、同社と委託業務を締結し、更新の協議を行っているものであります。３ 事業の成果・今後の方針としましては、令和７年１２月からの更新に向けまして、計画どおり図書館情報システムに関する協議を行っていることから、事業の成果があったものとして捉えておるところであります。今後、津市図書館におきまして、情報システムの更新を進めていくにあたりまして、３のアンダーバーで記述のある Web 書棚の導入やホームページのリニューアルなど、こういったことを進めていく中で、方向性をしっかりと定めた上で、図書館情報システムの内容についての協議を行っていく必要があると考えていることから、委員の皆様におかれましては、その点についてのご意見、また、他の点も含めまして、忌憚なきご意見を頂戴いただければと考えているところであります。

以上で資料３の説明は終わらせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

会長

今、図書館情報システムの更新ということで、なかなか分かりにくいところがあるのかなというのが。令和７年１２月に今あるやつからさらに更新されてということですのでよろしいですか。その時に色々代わってくるということで。

事務局

はい。

安部委員

WEB 書棚っていうのは一般的なそれぞれの図書館において、これから一般的に導入できる機能なのか、それともこれから、津市津図書館が全国的にみて新しいのか、それともそれに新たにそのタイミングで津市図書館を切り替え

	られるのかという点についてはどうなのでしょう。
事務局	今回システムのクラウドということで、ある程度こうパッケージ化されたものを導入するという形になっております。その中でこういった WEB 書棚については最近更新された図書システムの中では比較的入ってたりすることもあるかと、もの凄い先進的な価値ではということではないんですけど取り入れられているところは多いと思います。
会長	今までこんな本がありますよと WEB 書棚になるとこの本に関連する本、どのあたりの本をどの場合に出てきて、これもどうなのかなあと感じられる、ということも聞いているんですけども。
事務局	そうですね、検索した本とそれに近い分類の本、バーチャルですけどもそれが同じ画面の中で見られますんで、これも興味あるな、これも読んでみたいなど、さらに読書の推進につながるのかなということを感じております。
会長	なかなか今ないので、分かりづらいところがあるのかなあと思うんですけども。
安藤委員	あんまりそういう能力がない場合は、恥ずかしくてできないかなとは思うんですけども。 自分の本の見方としては、何か面白い本があったらその本に関する著者のものを見て、それから読書の幅を広げたりとか、嬉しいは嬉しいですね。ただ使い方があっていいのかどうかっていうのはありますね。普段の時に検索するときに、その図書館だけじゃなくて全館でというものがありますよね。全館を押して、続きの操作をしようと思っても、毎回全館を押さないといけない、一回全館押したら、そのあと全館がしばらく続くように変えていただけたらありがたいですけど。本を探すことが多いので。
事務局	全館と自館を選んでいただきまして、全館選んでいただくんですけども、検索に戻るともう自館に。
安藤委員	もう一回、一回ずつにし直さなきゃいけないので。一回押したらずーっと続けて欲しいなど。それと打つのに場所が、なかなか押しても出てこないことがあって、イライラするときがあります。私たちでも使えるようにお願いします。
事務局	それは主に館内の検索機ですか。
安藤委員	はい、そうです。
木原委員	更新されると端末はそれぞれの端末でアクセスしてコネクション、処理ができるということですか。端末は限られているのですか。
事務局	ご自身のパソコンであつたり、スマホであつたり、問題なくつながると思います。
木原委員	子ども達が学習端末で検索、アクセスして検索して、どこどこ図書館にあるなってわかって、それを自分の学校の図書館で借りるということは可能なんですか。

事務局

現状ではできておりません。

木原委員

そこらへんができればいいなあって思いますので、ぜひその中央図書館と学校図書室との、そのあたりの連携を取ってもらうというのが一つですね。

便利になって検索ができることの便利さと、子ども達が自分でちゃんと検索をかける力は違うんじゃないかなと気がしまして。何が事実で何がどうなのかとか、子ども達が AI に教えてもらって、一個見たらこれも見た方がいいですよって斡旋されて、ああ言われたから見て、でもそれは本当に賛否あるうちのちゃんと公正的なものを AI が教えているのかどうか、別の話になると思うんですよ。図書館のシステムがそうではなくて。今のグーグルとかヤフーとかが AI が、過去の履歴とかでこれこれという風に教えてきてくれるので。そうなると偏った情報になりがちになると思ってます。子どもたちがちゃんとそこをジャッジする力を養っていかないといけないと思うんですが、そのあたり、その便利な機能が入り口でもいいんだけどそのあたりのリテラシー的なことを、しっかりと教育の中で、もしくは学校の司書さん含めた学校の図書室の中で子供たちが理解していけるようになっていくとよりいいのかなという風に思いました。

会長

自分もすごく耳が痛くなる課題です。

情報活用能力についてはやっぱり、ぜひということで、進めていくというところですので、そのあたりご理解していくところで、学校の中でも。図書館の方の情報のシステムの更新の中で、この本に関連した本がここにありますよというそのくらいの分類の仕方という形でよかったですね。これ見たら津市の図書館にはこんな本もあるよという紹介を。それはどんな風に子どもたちが手に取って、まさに情報の活用ですね。

木原委員

基本的には全部の蔵書の、図書が出てくるイメージですか。

事務局

そうですね、はい。

会長

全然実際どんな本か分からないので、架空の話で申し訳ないですけども、これは来年 4 月の津市図書館協議会の提案いただけると。新しく更新のシステムについて。

事務局

提案というか今年の 12 月に新たに導入はされますので、その中でご紹介はまたさせていただきますと思います。

会長

よろしいでしょうか。では、3 番はこれで終了します。
その他、他に何かございますでしょうか。

千原委員

ずっと疑問に思ってたんですけど。図書館オタクなんですけど、いろんなところ行ってるんですけど。みなさんの図書館は大体窓に面して、窓に向かって、外が見える形で、カウンターがあったりテーブルがあったりするんですよ。結構多いんですけど。津の図書館さんはそういう設定の場所がほぼほぼなくてらっしゃるんですけど、それは津の図書館さんは何か初めの目的があったとか何か。

事務局

おそらくこの図書館、昭和 62 年の建築でございますので、その当時の考え方としてはそういう考え方は、今おっしゃったようなものがなかなかなかったと思います。ただ現状大きく変わることはなかなか難しいものがありま

すので、今これが踏襲されているということだと思います。

千原委員

たった一つだけ感じたことは居場所が大事なんですけども。なかなか大人数の中に入っていくのは、心のバリアがあるんですけど、もし、外の景色は素敵なんですけど、ホッとする時間は一つの居場所かなって思うんです。本に囲まれるっていうのも素敵だと思います。自然の中に自分は今いるなって。隣の人を意識しなくても隣に人がいるよね、本が好きな人いっぱいいる。その中の一人だなんて。つながってなくても、そこまで圧迫された環境、そこから外れてもいいのかなって思って。全部を窓にするってことではないけども。素敵な景色の場所に見えるような、机とテーブルを一つでもいいから、置いてみるからはじめて、ほんと山下さんの意見が参考になると思えて、ちょっと書くところのような、さっきのそこに座って見た感想、書きたい方は書いてみてくださいぐらいの感想を書いてもらっても、そこから広がったり、知りえる情報というのがあるんじゃないかなと思うんですよね。そんな、財政部署もきつと厳しい中で、いきなり全部を変えるなんて言いません。たった一個でいいです。一つだけテーブルを置いてっていうのが。

安藤委員

2の3のところにも戻るんですけども。WEB でいろんなことを、情報を得たい人の関係をももちろん書いたんですけど。もう一つお願いしたいのは図書館に行って、この本、こういう関係の本を教えてという、司書さんが結構丁寧に教えてくれるところがあって。そういう司書さんとの関係、人間対人間の関係が凄く好きなので。そういう関係のある、関係が保てる、人と人との、これについて教えて下さいと言える司書さんのいる図書館というのを目指していただきたいなと思います。

千原委員

久居の図書館さんの司書さんとお話しする機会があったんですけども、小学校一年生の方はその時点で2つの対応に分かれるそうです。一つの対応の方は絵本を読み続けてもう大人になったら本は読まなくなるそうです。もう一つのタイプの方は小学校一年生で、絵本から小説の世界に入っていきそうです。児童書とか図鑑関係、そういう人たちが大人になっても本を読んで、子どもさんを育てて、その子どもさんたちが図書館にいらっしゃるそうです。

千原委員

図書館にいらっしゃるそうです。それを聞いたときに、ちゃんと最後まで観察してみえて、すごいと思いました。津の図書館の司書の方は、おはなし会をとおして、本の知識を教えてくださいですけど、その場でしか味わえなかった雰囲気についても言葉をとおして、ちゃんと伝えていただけます。司書の方は、自分を磨いてみえると思います。その磨いたものを表に出せる機会があまりないと思ってみえることは、もったいないなと思います。

会長

今、すごく貴重な意見を話していただきましたが、時間も近づいてきています。なにか、ご意見などはありませんか。

安部委員

図書館の職員の方が、お声がけをしていただくことは、あまりないですよね。服屋さんでは、服をみていたら、店員さんがどんな服をお探しですか？みたいな感じですかね。

事務局

本を検索しますと、レシートが発行されますが、それを持って迷ってみえる方には、お声がけをします。また、最近、本の消毒器の位置を変えて、その影響で迷っている方もみえまして、お声がけをしたところです。

安部委員	皆さんが言われたとおり、もったいないなと思います。うちの学生とかもネットなどで調べて、レポートを書いているのですが、レポートを出すにあたって、学術的に信頼が高いとかを含めて、聞けば、もっと豊かな情報を得られるのですが、手軽な方に流されるものなんだろうが、こういったことを学生に伝えているところですが、それで、いいレポートを書いてくれる子もいれば、そうでない子もいるのですが、いずれにせよ、接することで、プロの凄みが分かるかと思います。出会いの機会を何かしらの形で増えればいいと思います。
会長	環境のこと、システムのことを含め、出会いを大切にすべきであるとのことでした。時間もまいりましたので、本日の議事を終了したいと思います。今後もより良い図書館の実現に向けて、協議していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。 最後に事務局よりご挨拶があれば、お願いいたします。
事務局	本日は、貴重なご意見をたくさんいただきまして、ありがとうございました。引き続き、本日いただいたご意見を参考に、図書館運営を進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。 本日は、どうもありがとうございました。
会長	これをもちまして、令和6年度第2回図書館協議会を閉会いたします。本日は長時間にわたり、ありがとうございました。